

令和6年度に 実施した主な事業

項目	主な事業名	金額
総務費	ふるさと納税推進事業	4億2,737万円
	市民バス運行管理事業	9,359万円
	定住促進事業	3,246万円
民生費	保育園運営事業	10億2,189万円
	障害者総合支援事業	8億4,685万円
	物価高騰対策給付金給付事業	4億6,850万円
	子ども・心身障害者医療費助成事業	1億4,578万円
衛生費	病院事業会計に対する負担金・補助金・出資金	11億1,460万円
	予防接種事業	2億 26万円
	各種検診事業	8,398万円
水産・農林業費	中山間地域等直接支払事業	2,747万円
	有害鳥獣対策事業	1,842万円

項目	主な事業名	金額
商工費	白石スキー場運営事業	7,531万円
	物価高騰対策商品券配布事業	7,419万円
	観光宣伝・振興事業	4,160万円
土木費	道の駅整備事業	5億7,382万円
	橋梁長寿命化対策事業	4億9,298万円
	スマートインターチェンジ整備事業	2億4,697万円
	市道新設改良事業	1億8,578万円
消防費	道路維持事業	1億1,337万円
	消防団等運営事業	7,368万円
教育費	外国語・国際理解教育推進事業	3,059万円
	学びの多様化学校管理運営事業	2,295万円
	学力向上プロジェクト事業	1,165万円
復旧費	社会教育施設災害復旧事業	9億5,100万円
	公共土木施設災害復旧事業	1,298万円



▲「NHKのど自慢」公開生放送。市制施行70周年の有終の美を飾る【総務費】



▲(仮称)白石中央スマートインターチェンジ周辺整備の工事が本格化【土木費】

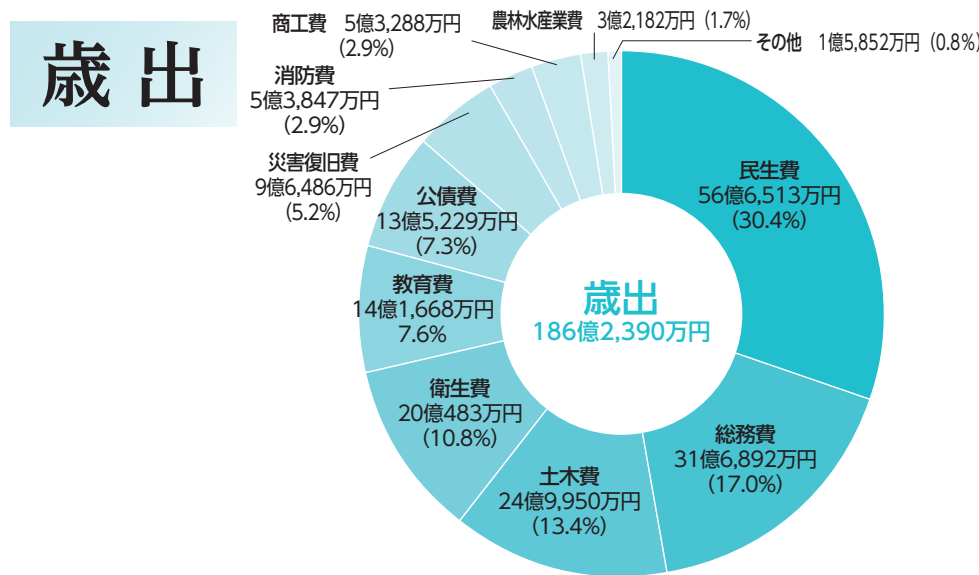
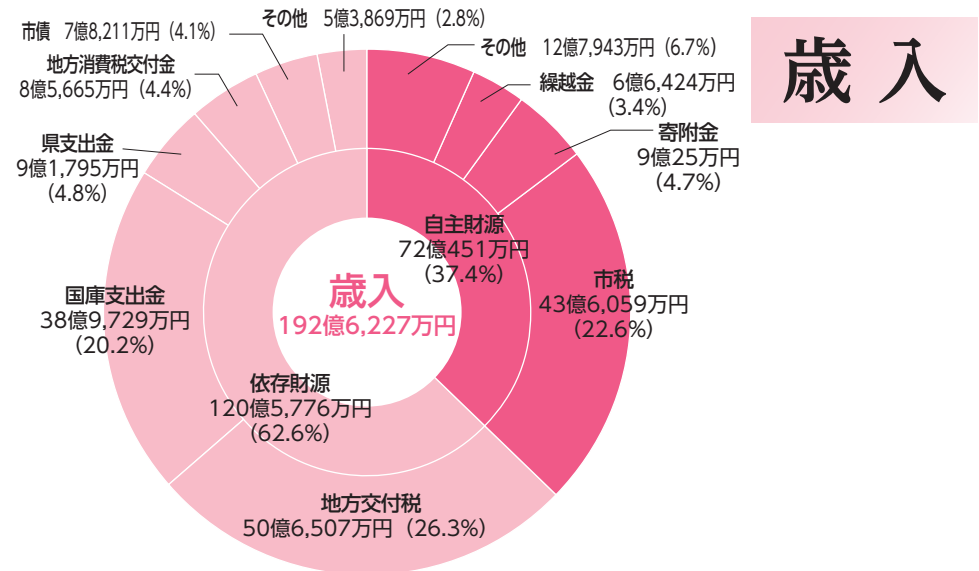


▲地震被害からの復旧工事を終えたホワイトキューブ大林組コンサートホール【災害復旧費】

歳入
歳入金は約19.9億円の減少
歳入は、市税、施設利用の際の使用料、住民票や各種証明書発行の際の手数料など、市が自主的に収入する自主財源と補助金や地方交付税など、国や県から配分を受ける依存財源に大別できます。自主財源は、前年度と比較して約13.4億円減少しました。寄附金や繰越金、市税が増加したことにより、基金からの繰入金を大幅に抑えることができました。

歳出
土木費が約4.4億円の増加
目的別の主な増減では、道の駅・防災公園整備事業などが増加したことにより土木費が大幅に増額になったほか、ふるさと納税推進事業や各種基金積立金の増加に伴い総務費が増額となりました。

一方、病院事業会計への繰出金の減少に伴い衛生費が減少したほか、令和4年3月に発生した福島県沖地震に係る災害復旧事業費の完了により災害復旧費が減額となりました。



一般会計決算

項目	令和6年度	令和5年度	前年度比較	
歳入(収入)	192億6,227万円	200億3,528万円	△7億7,301万円	△3.9%
歳出(支出)	186億2,390万円	191億 214万円	△4億7,824万円	△2.5%
形式収支(差引額)	6億3,837万円	9億3,314万円	△2億9,477万円	△31.6%
翌年度繰越財源	1億 609万円	3億9,547万円	△2億8,938万円	△73.2%
実質収支	5億3,228万円	5億3,767万円	△539万円	△1.0%

全会計決算

会計名		歳入(収入)	歳出(支出)	収支差引額
一般会計		192億6,227万円	186億2,390万円	6億3,837万円
特別会計	国民健康保険	35億7,163万円	35億 717万円	6,446万円
	介護保険	41億6,191万円	38億9,287万円	2億6,904万円
	後期高齢者医療	5億3,641万円	5億 783万円	2,858万円
合計		275億3,222万円	265億3,177万円	10億 45万円

※端数処理の関係で合計が一致しない場合があります。

令和6年度

決算

令和6年度一般会計・特別会計・企業会計の決算は、9月市議会定例会に議案を提出し、全会計とも認定されました。一般会計の歳入総額は、192億6,227万円(前年度比3.9%減)で、歳出総額は、186億2,390万円(同2.5%減)となり、3特別会計を合わせた歳入総額は、275億3,223万円(同2.8%減)で、歳出総額は265億3,177万円(同1.8%減)となりました。

また、一般会計決算の歳入総額から歳出総額を差し引いた額は6億3,837万円(同31.6%減)で、このうち翌年度へ繰り越した事業に必要なお金1億609万円を差し引いた実質的な収支額は、5億3,228万円(同1.0%減)となりました。ここで一般会計決算を中心に、令和6年度決算の概要をお知らせします。

◎財政課 ☎22-1332